

2020/11/17

(うとQ世話し 屋台骨、揺らぐ。もはや待ったなし)

パキ姉ちゃん一家の海外移住話しの影響で Go To Eat キャンペーン突如終了による売上減少補完策「カーリー文化圏輸入食料品店」計画に暗雲がさし始めたというお話を前回致しましたが、よく考えてみたら影響はそれに留まらない予感がしてきました。

いや、当社の経営理念である「貴方の傍にいる人との国際間世代間交流事業」(我々の長年に渡る様式美偏重や心理的鎖国を解き放つ事業)の屋台骨が大きく揺らぐ可能性が感じられるからです。

どういう事かという、この現象が単にパキ姉ちゃん一家にとどまらず、この近隣に近年、大挙して移り住んできた外国人家族全般の心象だとしたら、輸入食料品店での先々の需要漸減どころの話ではなく、交流の片割れである「国際間フィールド」そのものが消失してしまう事すら考えられるからです。

今コロナ禍で、故国以外で暮らそうとする移住者たちの間では、恐らく移住先の選別が始まっている様な気がします。

「見ると聞くとは大違い」

であった部分が実体験を経て修正され、実存レベルでの判定を潜り抜けた上で再評価、再選別され始めているような気がするのです。

パキ姉ちゃん一家の移住候補地はパキ姉ちゃん一家と洋の東西の他、肌の色も宗教文化も異なりますが、それをも押して迄移住しようと思うようになったのだとすれば、我が国の何がそれを決意させてしまったのか?肌の色もどちらかというのと近く、宗教的にもそれ程縛りもきつくない、言ってみれば「楽な筈の我が国」を捨てて迄、移住しようと思う迄に追い込んでしまったのか?

そうしてあれほど苦楽を共にしてきた仲間が、それをも捨ててまで移住しようと思うに至ってしまったのか?

更には決して給与条件の悪くない今の職場を捨てて迄、今コロナ禍、冒険とも言える移住の決意を旦那さんに促してしまったもの(心理的圧力)は何だったのか?

これは我が国の今後の未来の為にも、かなりのレベルで一考に値するような気がします。

そうして、それに関しては早急に本当の「不満、不具合」の源を突き止め、速やかに改善しないといけないという思いに強く捉われております。

事は急を要するようです。

屋台骨が揺らいでいるのは弊社だけの話ではないのかもしれませんが。ひょっとしたら我が国の未来の屋台骨が揺らいでいる可能性すらあるような。

だとしたら、一刻の猶予もありません。

最早

「待ったなし」

でしょう。